

「「備える」こと」

広島県 坂町立坂中学校 3年 出下 咲与子<sup>いでした きよこ</sup>

平成 26 年 8 月 20 日、広島で何が起きたか知っていますか。降り続いた大雨により広島市安佐南区・安佐北区を中心に、大規模な土砂災害が発生しました。この災害では、小さな子からお年寄りまで 77 人が犠牲になりました。この災害をきっかけに、全国の人が土砂災害のこわさを知り、対策を考えることができたと思います。

そして今年の 6 月、全国各地で避難命令や避難勧告が出されるほどの豪雨が何日かつづきました。私たちが住んでいる町にも避難勧告が出され、避難した人もたくさんいました。私の家の裏はすぐ山になっていて、危険区域に入っているという話も聞いたことがありました。命を守るためにも避難した方がいいと思いますが、私の家には犬がいるのでどこに避難したらいいのかよく分からず、とりあえず犬も連れて車に乗り、山からはなれた所に行きました。私達の地区は土砂災害は起こらなかったけれど、次の日がけ崩れで道路がふさがれていたり、電車がすごく遅れていたりする町の様子を見て土砂災害のこわさを実感しました。そして、日頃からすぐ避難できるように準備をしようと思いました。

私達の地区で土砂災害が起こらなかったことには、がけ崩れ防止の法枠（のりわく）工事がされていた事が大きく関係していると思います。3 年ほど前、私が小学生だった時に工事が始まりました。神社の横の、私達が好きでよく遊んでいた山がコンクリートで固められました。今まで緑だった山が灰色になって、少しさみしかったです。みんなで、「こんなにコンクリートで固めんでもいいのにねー。」と文句を言ったのを覚えています。

でも、先日の豪雨で法枠工事の意味にやっと気づきました。法枠工事された山の下には家が何軒もあります。その家に住んでいる人たちの不安な気持ちが少しでも軽くなり、がけ崩れも起こらなかったのも、法枠工事にはとても大きな意味があったと思います。

また、私達は中学校でも防災学習をしました。坂町内にある「サンスターホール」という施設をお借りして、3 年生全員が地域の人と一緒に避難訓練をするというものです。「中学生は守られる側ではなく守る側。」と教わって、たくさんの事前学習をしました。

まず、県庁の砂防課の方が来てくださって私達はその講座を受けました。お話の中で、土砂災害には種類があり、土石流・がけ崩れ・地すべりは全く違うものだと知りました。土石流はえん堤や砂防ダム、がけ崩れは擁壁や法枠など防ぐ方法も違うこともわかりました。そして最近では法枠内に花や草を植えたり、木を残しておいたりして、緑化への工夫もされているのですごいと思いました。他にも、模型を使ってえん堤の効果を学んだり、実際にハザードマップを作ったりしました。ハザードマップ作りでは、家の周りの危険箇所の多さにおどろきました。

次に、自分達でも準備をしました。災害時に自分達ができる事を考えました。避難時、高齢者の方に安心してもらえよう、救護班、豚汁班、マッサージ班、レク班などに分かれてそれぞれで調べました。

私は豚汁班でした。火のおこし方を調べ、多人数の豚汁の分量、作り方を給食センターの方に聞いたりしました。

そして当日になりました。各グループが声をかけ合いながら準備をしていました。私達のグループは外で炊き出しをする予定でしたが、雨が降っていたので近くの公民館をお借りしました。各グループにいろいろなトラブルはあったけれど、臨機応変に対応する同級生がすごくかっこよかったです。実際の災害時には何が起こるか分からないので良い経験になりました。

防災訓練は大成功だったと思います。お年寄りに笑顔が見られて、「こんな中学生が周りにいてくれたら安心。」と言ってくださいました。私達も防災についていろいろな事を学べたし、高齢者の方達にも防災の事を知ってもらえたと思います。

私がこのような事を通して学んだのは、「備える」ことの大切さです。いつ起こるか分からない災害に備えて、今できる事はたくさんあります。土砂災害だけでなく、様々な自然災害に、人も施設も対応できる町になればすてきなと思います。